

社会工学専攻（博士後期課程）における 社会人早期修了プログラム履修のための案内

【1】 社会人早期修了プログラム履修審査

社会人特別選抜によって博士後期課程に合格し、早期修了プログラムの履修を希望する者は、以下の書類を提出することによって、社会人早期修了プログラム履修審査を受けることができます。審査は原則として書類審査ですが、面接審査を行うこともあります。面接審査を行う場合には連絡します。

書類提出時期と提出先については、システム情報工学研究科の「早期修了プログラム履修審査に係る日程表」（システム情報工学研究科 HP に掲載）を見て下さい。また、書類提出前に、指導希望教員と提出書類の内容についてよく相談して下さい。

社会人早期修了プログラム履修審査のために準備する書類

次のように、Ⅰ．概要、Ⅱ．業績リスト（社工後期）と付属資料、Ⅲ．早期修了プログラム達成度自己点検シート【履修生用】、Ⅳ．博士論文の構想の4種類の書類を提出して下さい。

I. 概要

次の項目について、簡潔にまとめて下さい（1 ページ以内）。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先（郵便物送付先、電話番号（携帯電話も）、FAX 番号、e-mail address を必ず記載）
- (4) 志望分野・志望教員
- (5) 修士論文作成時の専門分野（修士号保有者のみ）
- (6) 業務内容と志望分野との関わり
- (7) その他参考となる事項（業績・資格など）

II. 業績リスト

『業績リスト（社工後期）』記載例を参考として、A. 学術的蓄積と B. 業務実績に分けた「業績リスト（社工後期）」を作成して下さい（ページ数に制限はありません）。

A. 学術的蓄積

博士の学位論文の基となる「学術的蓄積」として、査読付き学術論文2編以上（筆頭著者であることが望ましい）が必要です。この学術的蓄積のリストを準備するとともに、付属資料として、査読付き学術雑誌論文別刷（コピー可）および査読付き国際会議論文（コピー可）を添付して下さい。両方合わせて代表的なもの5点以内を選んで下さい。

なお、査読付き学術論文については、採録可とされていれば、未刊行のものでもかまいません。その場合は、採録通知と原稿を合わせて添付資料として下さい。

その他に、口頭発表、依頼原稿、講演、各種講師、マスメディアへの出演などについて、区分して記載して下さい（ページ数に制限はありません）。

B. 業務実績

主な業務内容を「B. 業務実績」として各年別にリストにし、内容を簡単に説明して下さい。

Ⅲ. 達成度自己点検シート

『達成度自己点検シート（社工後期）』記載例を参照しながら、以下に示す達成度評価項目の①～⑦の各々について、自己評価としてA（博士の学位にふさわしいレベル）、B（修士の学位レベル）、C（学士の学位レベル）のいずれかをその根拠とともに、「早期修了プログラム達成度自己点検シート【履修生用】」に、記述して下さい。

原則として、①、③、⑤、⑥、⑦についてはA（博士の学位にふさわしいレベル）であることが主張できなければなりません。その他の項目②、④についてはB（修士の学位レベル）以上を主張して下さい。②、④についてA（博士の学位にふさわしいレベル）であることを主張しても差し支えません。

① 専門基礎（入学者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか）

業績リストの「A. 学術的蓄積」として挙げた論文等の内容に従って、専門基礎が、博士の学位にふさわしいレベルであることを、端的に、主張して下さい。論文等の特定部分を引用しながら、具体的かつ客観的に述べて下さい。

② 関連分野基礎（専門に関連した分野について、修士の学位レベルの基礎能力を有しているか）

修士課程のときの学習内容について簡潔に記して下さい。修士課程を修了していない場合は、修士相当の関連分野基礎能力を有していることを客観的かつ具体的に述べて下さい。

③ 現実問題に対する分析力（現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか）

実務の中でどのように現実の問題の知識を得たかについて記すとともに、現実の問題の知

識が「A. 学術的蓄積」に現れている箇所について記して下さい。必要に応じて論文等の特定部分を引用しながら、具体的かつ客観的に述べて下さい。論文を引用せず、業績リストの「B. 業務実績」に基づいて実務経験について述べても構いませんが、その際は、業績リストの「B. 業務実績」に該当する実務業績を、必ず、記載して下さい。

④ 広い視野（修士の学位レベルの視野の広さを有しているか）

これまでの経験と学習がどのような形で広い視野を形成するようになったか簡潔に記して下さい。

⑤ 問題設定から解決まで（博士の学位にふさわしく、専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか）

業績リストの「A. 学術的蓄積」として挙げた論文に基づいて、どのように問題設定を行い、問題を解決していったか、論文等の特定部分を引用しながら、具体的かつ客観的に述べて下さい。

⑥ コミュニケーション能力と国際的通用性（博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか）

これまで行ったプレゼンテーションについて、日時・場所・発表内容を簡単に要約して記して下さい。国際・国内会議などで行ったプレゼンテーションについては必ず含めて下さい。必要に応じて、業績リストや口頭発表資料等を引用して下さい。

⑦ 学術的成果（博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか）

業績リストに基づいて、論文・発表数、特許、実務業績、受賞、特記事項などを要約して下さい。

IV. 博士論文の構想

1. 業績リスト（社工後期）の「A. 学術的蓄積」で挙げた論文等の内容に基づいて、学位論文執筆の構想について簡単に（2～4 ページ程度）記述して下さい。

2. 上記の学位論文の構想に基づいて、学位論文を執筆するにあたり、課題として残されている事があれば記述して下さい。

3. 関連分野についての簡単なサーベイも記述して下さい。

4. 上記の執筆にあたっては、研究の背景や問題意識、具体的なテーマと成果について、業績リスト（社工）の「A. 学術的蓄積」で挙げた論文等の内容や関連分野との関連も含めて、簡潔に記述するように努めて下さい。

社会人早期修了プログラム履修審査の内容について

「早期修了プログラム達成度自己点検シート【履修生用】」、「業績リスト（社工後期）」などの資料を基に、達成度評価項目別に3段階評価を行います。

A：博士の学位にふさわしいレベル

B：修士の学位レベル

C：学士の学位レベル

達成度評価7項目のうち、①、③、⑤、⑥、⑦についてはA、②、④についてはB以上の評価をもって履修可と判定します。

【2】 履修が承認された場合の学修について

一般の社会工学専攻（博士後期課程）の大学院生と同様、以下の20単位を履修・修得が修了要件となります。

社会工学博士特別演習Ⅰ 社会工学博士特別演習Ⅱ 社会工学博士特別演習Ⅲ 社会工学博士特別演習Ⅳ 社会工学博士特別研究Ⅰ 社会工学博士特別研究Ⅱ 指導教員及び2名の副指導教員により以下を行う。 論文作成に関するアドバイス 研究計画発表、中間発表と予備審査発表 なお、予備審査発表については、指導教員及び2名の副指導教員を含む5名以上の教員の出席と、合格評価により単位が認定されます。公開審査については、学位論文審査委員会教員の出席と、合格評価により単位が認定されます。時期につ	専門科目（必修） 各2単位、6科目12単位 注：AGゼミ・研究発表・博士論文・QE等に相当
--	---

いては履修開始後に指示します.	
社会工学ファシリテーター育成プログラムⅠ 社会工学ファシリテーター育成プログラムⅡ 社会工学インターンシップ 社会工学特別講義Ⅰ 社会工学特別講義Ⅱ 社会工学特別講義Ⅲ	専門基礎科目（選択必修） 各2単位，2科目4単位以上を 選択 注：社会工学ファシリテーター 育成プログラムⅠ，Ⅱ，社会工 学インターンシップについて は，実績を認定する事ができる.
以下から1科目以上選択 大学院共通科目	基礎科目（選択必修） 計2単位以上
計	20単位以上

以上を履修することによって，予備審査時には，①～⑦すべての項目について A（博士の学位にふさわしいレベル）に到達している必要があります。

なお，担当教員が履修を勧める科目と履修内容は，各学生により異なる場合がありますが，いずれも達成度評価に基づき判定しますので，担当教員の指示に従って下さい。

中間審査について

学修を円滑に進めるため，本プログラム履修開始から3～4ヶ月経過した時点で，学修の進捗について中間審査を行います。中間審査時には，履修審査時に提出した「早期修了プログラム達成度自己点検シート【履修生用】」と同じ形式の中間審査時達成度自己点検シートを提出するとともに，中間発表を行います。担当教員の指導を受けて下さい。

予備審査について

予備審査時には，次の2点を審査します。

- (1) ①～⑦すべての項目について A（博士の学位にふさわしいレベル）以上であることの確認
- (2) 学位論文の予備審査

予備審査に合格した者は，学位論文に着手することが認められます。

【参考】 社会人博士後期課程早期修了プログラム達成度評価項目と修了時の達成度の目安

- ① 専門基礎
履修者の専門分野について、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか.
- ② 関連分野基礎
専門に関連した分野について、専門分野ほど深くはないとしても、博士の学位にふさわしいレベルの基礎能力を有しているか.
- ③ 現実問題の知識
現実の問題について、博士の学位にふさわしいレベルのセンス・見識を備えているか.
- ④ 広い視野
博士の学位にふさわしい視野の広さを有しているか.
- ⑤ 問題設定から解決まで
専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか.
- ⑥ コミュニケーション能力と国際的通用性
博士の学位にふさわしいプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有し、専門分野において国際的に通用する学識を備えているか.
- ⑦ 学術的成果
博士の学位を授与してよいと判定できる学術的成果を有しているか.

「業績リスト（社工後期）」記載例（履修希望者氏名：筑波 太郎）

A. 学術的成果

1. 査読付き学術雑誌論文（2編）

- 1.1. $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$, 筑波太郎：配送計画問題に対するメタ解法の新しいフレームワーク. $\bigcirc\bigcirc$ 学会論文誌, Vol. xx, No. xx (2011), pp. xxx-xxx.
- 1.2. Taro Tsukuba and $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$, *Heuristic Approaches for Solving Vehicle Scheduling Problem, Transportation Research, Vol. xx, No. xx (2010), pp. xxx-xxx.*

2. 査読付き国際会議論文（1編）

- 2.1. Taro Tsukuba and $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$, *An Optimization Framework for the Vehicle Routing Problem, International Workshop on Transportation and Logistics, Sydney, Australia, October (2012).*

3. 口頭発表（10件のうち国際会議3件）

- 3.1. 筑波太郎, $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$ ：順序を考慮した配送スケジューリング問題に対するメタ解法, 第15回 $\square\square$ 学会, 2012年10月.
- 3.2. 筑波太郎, $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$ ：ロジスティクスにおけるメタ解法と実装, 第10回 $\square\square$ シンポジウム, 2012年2月.
- 3.3. $\times\times\Delta\Delta$, 筑波太郎：資源制限付きスケジューリング問題の最適化, $\bigcirc\bigcirc$ 研究部会, 2011年11月.
- 3.4. Taro Tsukuba and $\times\times\Delta\Delta$, *Optimization Models for Dynamic Transportation Problems, International Symposium on Transportation and Logistics, Singapore, May 2010.*

...

- 3.10. $\times\times\Delta\Delta$, 筑波太郎：配送スケジューリング問題に対するメタ解法の枠組, 第 $\diamond\diamond$ 回 \bigcirc 学会, 2009年11月.

4. 発明・特許

- 4.1. 筑波太郎, $\Delta\Delta\bigcirc\bigcirc$, 特開 2001-XXXXXXX (特願 2000-XXXXXXX)
- 4.2. 筑波太郎, $\square\square\Delta\Delta$, 特開 2001-XXXXXXX (特願 2000-XXXXXXX)

5. 原稿依頼

なし

6. 講演・各種講師など

なし

7. マスメディアへの出演など

なし

B. 業務実績

2011年4月～2004年10月：〇〇社における原材料搬入および製品搬出スケジュールリング, サブリーダー

2012年4月～現在：〇〇社におけるトラック配送計画, リーダー

C. その他特記事項

なし